

彩り・潤い・健康を、果物とともに

果樹研究所ニュース

甘い梨できました「甘太（かんだ）」

品種育成・病害虫研究領域 加藤 秀憲

皆さんはどんな梨を食べたいですか？ 果汁いっぱいのジューシーな梨？ それとも甘い梨？

中央果実協会が昨年行った全国の男女2,000人を対象としたインターネットによるアンケート調査によると、梨の新品種に期待することとして、「高糖度で甘い」が28.3%で最も多く、その次は、「歯ごたえ・歯触りが良い」で15.1%でした。人によって好みは違うと思いますが、この結果から、多くの人が「糖度が高く甘い梨」を求めていることが分かります。そしてその期待に答えることができる梨の品種ができました。それが「甘太（かんだ）」です。

「甘太」の一番の特徴は、その甘さにあります。甘さを表す数値として糖度がありますが、「甘太」の糖度はおよそ15%です。単純に比較はできませんが、日本で一番つくられているニホンナシ品種「幸水」の糖度が12～13%であることからその甘さが想像できるのではないのでしょうか。そんな甘さを持った「甘太」ですが、実は甘いだけでなく、酸味も持っています。「幸水」の次に生産量の多い「豊水」は、甘味と酸味のバランスのとれた品種として知られていますが、酸っぱいと感じる方も多いのではないのでしょうか。実は、「甘太」も「豊水」と同じぐらいの酸味を持っています。しかし「甘太」を食べて酸っぱいと感じることはないと思います。強い甘味によって酸味が隠されているからです。逆に甘味と酸味がともに高いことから濃厚な味わいとなり、それがおいしさにつながっています。

「甘太」のもう一つの特徴として、樹の生長が早く、実の着きもよいので、初期収量が他の品種にくらべて良いことが挙げられます。定植後5～6年生の樹で比較した場合、「甘太」と同じ時期にとれる「新高」と比較して収量が明らかに多いです。

「甘太」は、茨城県つくば市で9月下旬から10月上旬に収穫され、梨としては比較的遅い時期にとれる品種です。そして、寒さと降雪のため果実が十分成熟しないことがある北東北より南のニホンナシ栽培地域なら栽培することができます。

そんなに美味しいのなら、今年の秋「甘太」を食べてみようと思った方がいらっしゃるかもしれませんが、残念ながら、現在お店で「甘太」を買うことはできません。「甘太」の苗木は、今年から販売され始めましたので、果実がお店に並ぶまでにはあと数年かかります。少しお時間を頂きますが、「甘太」が多くの方に味わってもらえるようになることを期待しています。そして、「甘太」が甘い梨の代名詞として認知されとうれしいです。



「甘太」の結実状況



「甘太」の果実

ニホングリ在来品種の丹波地域から地方への伝搬

品種育成・病害虫研究領域 西尾 聡悟

ニホングリは日本原産の果樹で古くから日本人の生活に密接に関わっています。文献上最も古い栽培の記録をもつクリの産地は大阪、兵庫、京都の3府県が境界を接する丹波地方であり、この地域で栽培されるクリは『丹波栗』と総称され、大果であることで知られていました。クリにおいて品種としての概念が成立したのは江戸時代以降と推定され、この頃から丹波地域より優良なクリが全国に持ち運ばれ、日本全国に栽培が広がったものと考えられています。しかしながら、この仮説は遺伝学的に十分に証明されていませんでした。

DNA マーカーにより、在来品種の親子解析を行なったところ、丹波地域の最も著名な品種である「銀寄」が5つの地方品種の親であることが明らかになりました(表1)。「銀寄」の種子や穂木を丹波地域から地方に伝搬することで、地方で「銀寄」の血を引く優良品種が誕生したと考えられます。さらに、在来品種の遺伝子解析からも、丹波地域から地方への品種の伝搬が示唆されました。例えば、ある地方品種が丹波地方の品種と同一個体であることや、地方の品種でも丹波地域の遺伝子を持っている品種が複数発見されました。一方で丹波地域の品種とされるものの中にも、地方品種の遺伝子を持っているものが存在したことから、地方から丹波地域にも品種が導入されていることが推定されました。親子解析や遺伝子判定および古い文献の記録などから推定される在来品種の伝搬を図1に示しました。このように古くから丹波地域はクリの品種の移動において重要な役割を果たしており、地方のクリの産地化に大きく貢献したものと考えられます。

表1 両親が推定された組合せ(8組合せ)

子	親	親
小台 (神奈川)	笠原早生 (岐阜)	銀寄 (大阪)
秋芳早生 (山口)	大正早生 (神奈川)	銀寄 (大阪)
土田早生 (岐阜)	笠原早生 (岐阜)	銀寄 (大阪)
田上1号 (熊本)	笠原早生 (岐阜)	銀寄 (大阪)
豊前 (大分)	岸根 (山口)	銀寄 (大阪)
小川手々打 (兵庫)	笠原早生 (岐阜)	銀寄 (大阪)
乙宗 (兵庫)	田尻銀寄 (大阪)	彼岸 (京都)
大八 (京都)	金善 (京都)	又兵衛 (京都)

丹波地域の品種は赤色で示す

() 内は在来品種の導入元の県を示す



図1 推定される在来品種の伝搬

お知らせ

■ 農業技術研修生制度の紹介

果樹農業の担い手となる人材の養成を目指した研修制度を行っています。

研修は2学年制で、講義と実習を行っており、実習は主に果樹栽培管理に必要な作業を行っています。

募集人員は各コースとも15名です。

ー 募集コース(研修場所)ー

- ・落葉果樹コース
本所(つくば市)
- ・常緑果樹コース
カンキツ研究興津拠点
(静岡市)

平成28年度入所の推薦願書受付中
(平成27年10月9日まで)

※詳しくはホームページをご覧ください。

■ イベント情報

つくばちびっ子博士2015

平成27年8月18日・19日に行われた「つくばちびっ子博士2015」には、724人の小中学生の参加がありました。ご来所ありがとうございました。

第13回 農研機構果樹研
フルーツセミナー

開催日:平成27年10月1日(木)
10:30~16:15

場所:緑が丘文化会館
(東京都目黒区緑が丘2-14-23)

※詳しくはホームページをご覧ください。

果樹研究所ニュース 第46号(平成27年9月1日)

編集・発行:国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所

NARO Institute of Fruit Tree Science

事務局:企画管理部 情報広報課 TEL 029-838-6454

住所:〒305-8605 茨城県つくば市藤本2-1 <http://www.naro.affrc.go.jp/fruit/>

